

受験番号

平成30年度 推薦入学試験問題

小論文

【注意事項】

1. この冊子には問題用紙と答案用紙が挟み込まれています。試験開始の合図があるまで冊子を開いてはいけません。
2. 試験開始後、この冊子、問題用紙、答案用紙の受験番号欄（左上）に受験番号を記入下さい。
3. 問題用紙には問題が1～3ページに記載されています。落丁、乱丁および印刷不鮮明な箇所があれば、手をあげて監督者に知らせ下さい。
4. 答案には、必ず鉛筆（黒、「HB」「B」程度）またはシャープペンシル（黒、「HB」「B」程度）を使用下さい。
5. 解答は答案用紙の指定された場所に記入下さい。ただし、解答に関係のないことが書かれた答案は無効にすることがあります。
6. 問題用紙の余白と裏面は下書きに使用しても構いません。
7. 問題用紙および答案用紙はどのページも切り離してはいけません。
8. 問題用紙および答案用紙を持ち帰ってはいけません。

受 験 番 号

課題 次の文章を読み設問に答えなさい。

自己・世界・他者

人間と世界との「あいだ」は、開かれた境域として機能するということを述べたが、いいかえれば自己と世界を契機として、「あいだ」が「あいだ」として機能しているといつてよいであろう。ところがさらにこの「あいだ」を構成している契機として、他者（たち）という契機を見落としてはならない。

さきに近世初頭のパースペクティブ思想の箇所で指摘しておいたように、世界はそれぞれの視点に別様に現われてくるのである。①世界の現われが複数のであり、わたくしへの世界の現われはそのなかの一つにすぎないということが理解されてはじめて、視点としての自己理解が可能となるのである。視点が視点であるためには、視点は複数でなければならない。そうでないと視点とはいえないわけである。しかし他方では視点は他者によって代替できない自己性という根源性をもっている。視点とはそれを生きることによってはじめて視点の名にふさわしいものとなる。視点のアポリアとでもいうべき②自一他の相互制約の構造がここに見いだされる。

形式的にいえば、わたくしはわたくしであつて他者になることができない。わたくしは他者ではない、と同様に他者もまたわたくしではない、なぜならわたくしは原理的に他者の立場に立ちえないからである。しかし他者の立場に立ちえないで、他者について、いったいなにをどこまで語りうるのか、そのことが当然のこととして問題になってくる。それには他者の他者性の③経験が可能であるのかどうか、また可能であるとすればどういう仕方なのか、ということがまず問われなければならない。というのは、他者の他者性を踏まえたうえで、はじめてわたくしについていえることを他者にもいいうるのかどうかを問うことができるからである。ただ、いちおうは、視点の例が語っているように、他者の存在の前提なしにはわたくしがわたくしであるという自己理解もまたありえないということだけは、はっきりいえるであろう。このようにわたくしが「他者たちのなかの一人」であるという理解なしに、わたくしはわたくしの自己というものを語ることはできないばかりか、そもそもわたくしと特定の他者とが理解しあうこともできないのである。

だいたい複数の主観ということが現代の思想のなかで問題とされてきた経緯は、まず科学的対象（さらに文化的事象全般）の客観性の構成ということからであった。つまり客観性の成立条件としての多数主観ということがまず問題にされたのである。もともと近代の学問論が最初から知識の客観性を普遍妥当性という性格によって規定しようとしたこと自体が、すでに客観性を共同主観的な性格から見ようとし

ていたことを告げている。つまり「いつでも」という遍時性、「どこでも」という状況非拘束性に加えて、「だれにでも」という性格が、客観性規定のなかに相互主観的な共通性が含まれることを表わしている。

もちろん現代では④「だれにでも」という対象の妥当性のうえでの客観性だけが問われるのではなく、複数の主観どうしで、相互に対話しつつ、意見の修正とか合意をとおして、共有する対象知の客観性を形成していくことを重視し、この対話による伝達（コミュニケーション）という言語行為を客観性の構成の条件のなかに含めて議論していることはいうまでもない。

最初このように客観性の構成の条件への問いとして登場した⑤相互主観性の問題が、やがてだんだんと、「私と等根源的な主観としての他者の経験はいかにして可能か」という問いに深まっていった。このようにして、客観性への問いは、今日、他者の問題系の方向を開く一つのきっかけになっている。

（新田義弘、哲学の歴史—哲学は何を問題にしてきたか、
講談社現代新書 1989年より一部改変して抜粋）

設問 1. 下線①の意味を 30 字以内で説明しなさい。

設問 2. 下線②について述べていると考える部分を文中から抜き出し 40 字以内で記しなさい。

設問 3. 文脈的に考えて、下線③の文の主語は何か記しなさい。

設問 4. 下線④の意味を 30 字以内で説明しなさい。

設問 5. 下線⑤について、どのようなことであるかと考えるか 200 字以内で記しなさい。